



西部エリア 作並・定義地区 ブランドコンセプト

- ・ 歴史と背景
- ・ ブランドコンセプト
- ・ ブランドコンセプトの詳細
- ・ ターゲット
- ・ 過ごし方
- ・ ブランドを確立するために必要なアプローチ

令和5年3月
仙台市西部エリア
作並・定義地区ワークショップ

作並の歴史

仙台市と山形市を繋ぐ関山街道に位置する作並温泉。その歴史は諸説あり、721年（養老5年）に行基が東北地方を行脚した際に発見したとされる説と、1189年（文治元年）に源頼朝が藤原氏討伐の際に、手負いの鷹が湯に浸かりその後雄々しく飛び去るのを目の当たりし、泉質を確かめたとする説があります。

秘湯として知る人ぞ知る温泉とされてきた作並温泉は、1796年（寛政5年）に地元の住民である岩松喜惣治が、仙台藩第8第藩主伊達斉村の許しを得、8年の歳月を得て開湯。今なお多くの人々に親しまれています。



© City of Sendai



© City of Sendai



じょうぎ

定義の歴史

「定義さん」と呼ばれ、古来より民間の信仰を集めている定義如来西方寺がある定義。その歴史は古く鎌倉時代に遡り、平重盛の重臣である肥後守平貞能（さだよし）が、壇ノ浦の戦いに敗れた後、源氏の追討を逃れるべくこの地に隠れ、その際に名を「定義（さだよし）」と改めたことが由来とされています。

その後貞能公の重臣の末裔である早坂源兵衛が出家し、宝永3年（1706年）に西方寺を開山。定義如来西方寺の貞能堂や山門などは、登録有形文化財（建造物）に登録されています。

現代にいたるまで、一生に一度の大願を叶えていただける如来様として、「縁結び」「子宝」「安全祈願」など、多くの人々の祈りや願い、心の拠り所として信仰されています。まさに、『心を落ち着かせる』地です。

都心を少し離れた 『心の休息地』

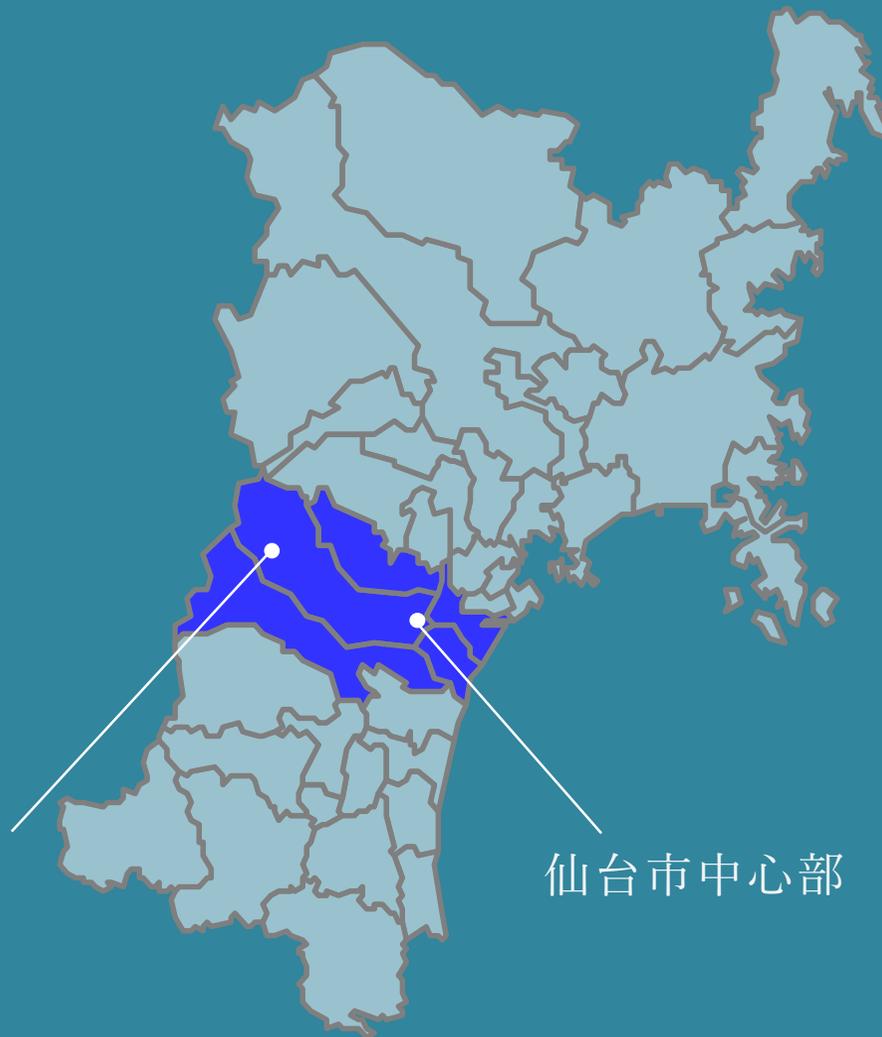
東北地方最大の都市、仙台市。
その中心部から車で約45分の距離に、作並・定義
があります。

都会的な街並みを少し離れると、そこには水や緑が溢
れる、自然の美しさを感じられる風景が広がります。

ふらっと気軽に訪れることができる『心の休息地』。
それが、作並・定義の魅力の1つです。

作並・定義

仙台市中心部





心を落ち着かせる場所

作並・定義は、歴代仙台藩主のかくし湯として知られる作並温泉や、平家の末裔から現代に至るまでの約800年間、『心のよりどころ』として信仰される定義さんとその門前町がある、歴史ある場所。

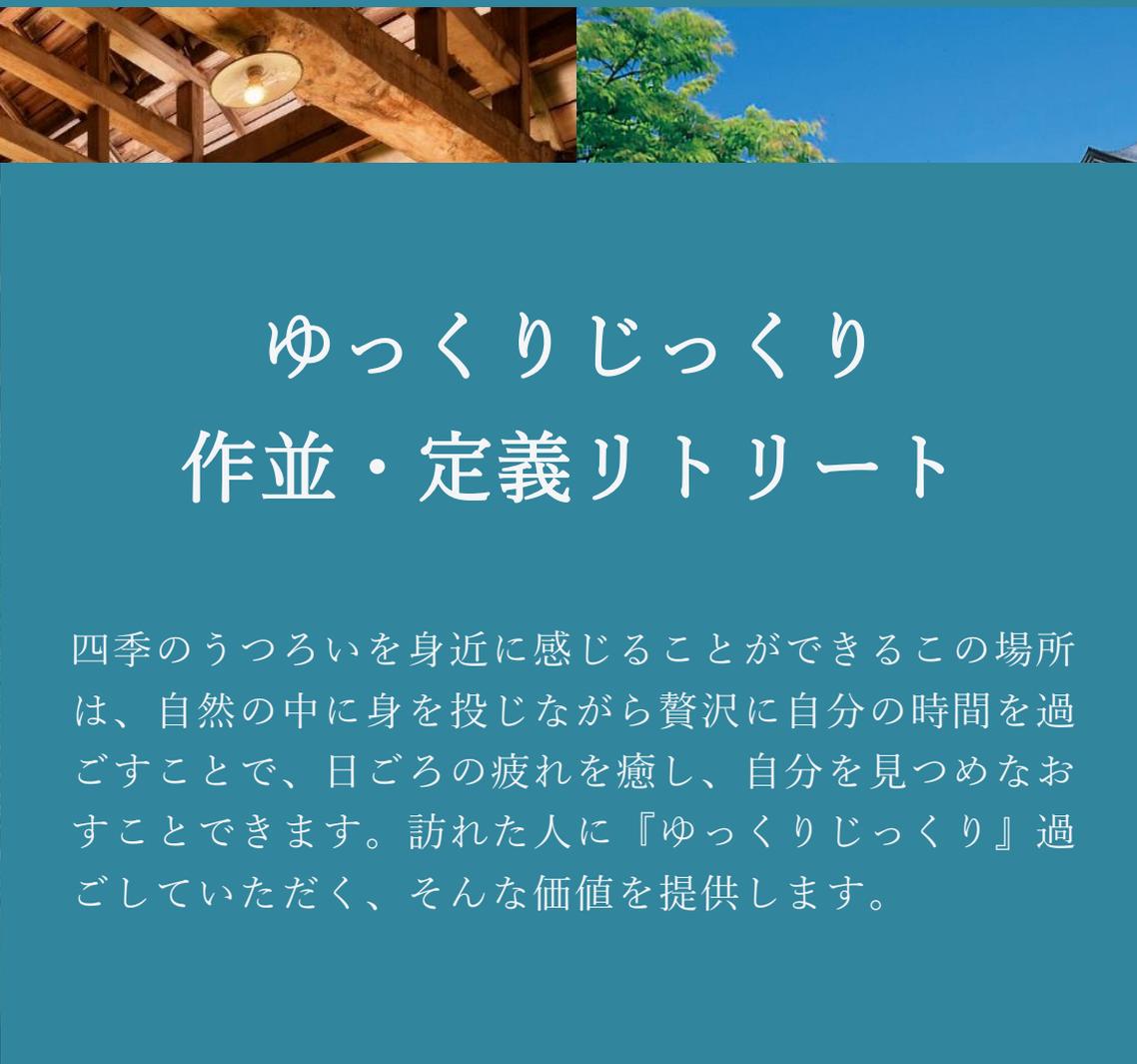
自然豊かなこの場所は、広瀬川の美しい源流が流れ、『水』を見て・触れて・飲んで、五感で感じて癒されることができます。

春夏秋冬、四季折々に移り変わる景色を堪能でき、時間を忘れて自然と一体になれる。そんな作並・定義で『ゆっくりじっくり』過ごしてみませんか。

ゆっくりじっくり 作並・定義リトリート

四季のうつろいを身近に感じることができるこの場所は、自然の中に身を投じながら贅沢に自分の時間を過ごすことで、日ごろの疲れを癒し、自分を見つめなおすことができます。訪れた人に『ゆっくりじっくり』過ごしていただく、そんな価値を提供します。

(写真提供) 宮城県観光プロモーション推進室



『リトリート』という過ごし方

『リトリート』の語源は、「回復」「再治療」を意味する『Retreatment』や「隠れ家」「静養先」を意味する『Retreat』。

日常を忘れてリフレッシュすることを目的に、住み慣れた土地を離れゆったりとした時間を過ごし、心と体を癒す過ごし方のことです。

作並・定義は、この『リトリート』を、エリア全体で体感でき、ゆっくりじっくり過ごすことができる場所です。





良質な『水』と豊かさ

新川や広瀬川の源流が流れるこの場所は、ニッカウキスキー、鳳鳴四十八滝、大倉ダム、青下ダムなど、水にまつわる様々な場所がいくつもあります。そして、この地で活動する人は、皆「水」の良さ・豊かさを口にします。

ニッカウキスキーの創業者である竹鶴政孝は、新川の清流でウイスキーを割り、その味に感動しこの地に蒸留所を建設することを決めたという逸話も残っています。

作並温泉にゆったり浸かり、その水の良さを肌で感じたり、鳳鳴四十八滝の荘厳な景色に癒されたり、全身で豊かな『水』を感じることができます。



ターゲット



日々の喧騒から離れ、自然の中でリラックスした時間を過ごしたいと感じている層



長期滞在でゆっくり過ごしたいと考えている層



歴史や伝統、文化を学ぶ旅がしたいと感じている層

過ごし方

①追憶で生まれる『出会い』と『縁』

- ・ 正岡子規が訪れた道を巡る
- ・ 平家の里800年、「縁結び」西方寺での参詣と食べ歩き

②じっとして、ぼんやり、ゆったり自然と向き合う リトリート

- ・ 作並温泉へ連泊スタイルでの長期滞在「現代版湯治」
- ・ 広瀬川源流でのチェアリングで「何もしない」をする
- ・ 大倉ふるさとセンターでのソロキャンプ

③祈りと癒し、心を落ち着かせる地

- ・ 西方寺での写経体験、抹茶処にて一休み



ブランドを確立するために必要なアプローチ (ワークショップ内で出た意見)

○コンテンツ

- ・夜が暗いことを逆手に取ったコンテンツづくり
- ・ロウソクでのライトアップ
- ・夜のコンサート
- ・周遊を促すモビリティ
- ・名物の人物にスポットをあてたコンテンツ
(例:名物のコンシェルジュ、農家、バスガイド等)
- ・仙台七夕で使われている「竹」にスポットをあてたコンテンツの創出
- ・旅ナカのコンテンツの提案
- ・地元の方をプレイヤーとして関わる仕組みづくり



ブランドを確立するために必要なアプローチ (ワークショップ内で出た意見)

○プロモーションの方法

- ・四季折々の過ごし方のストーリーが分かるムービー
- ・事業者が楽しみながら情報を発信することが重要
- ・仙台市中心部と作並・定義の距離感が分かりづらい
ため、距離感をもっとPRしていく必要性
- ・様々なSNSでの情報発信があり分かりづらいという課題
- ・発信元を1つに集約し、見る人が分かりやすい仕組みづくり



ブランドを確立するために必要なアプローチ (ワークショップ内で出た意見)

○受入環境の整備

- ・夜が暗いことを活かした仕掛けづくり、ライトアップ等
- ・旅ナカの提案を増やしていく必要性
一度旅館にチェックインした人が、空いた時間にできることをどう提案していくか、選択肢を増やす必要性
- ・モビリティの選択肢としてバスやタクシー以外のスローモビリティの必要性

